

2015年の日本経済を展望する

三菱UFJモルガン・スタンレー証券参与、景気循環研究所長

嶋中雄二

- *原油価格急落の影響をどう見るか
- *EUは3月までには量的緩和に向かう
- *中国も春先に景気は上向きへ
- *忘れてはいけないマネタリズムの効果
- *量的緩和と株式市場の関係
- *交易条件の改善で企業収益もよくなる
- *為替は130円を超える可能性も
- *景気拡張期に入った日本経済
- *設備投資比率の上昇がポイント
- *今、4つの波がすべて上昇へ



柴生田 それでは開会いたします。（拍手）

早いもので今年も今日が最後の講演会になりました。昨年嶋中先生に同じ時期に新年を展望していただきました。もちろん皆さんよくご存じで紹介の必要もないわけですが、これは今までにないんですけれども、最新の資料をご用意いただくということで、私どもで刷っていると間に合わないものですから資料を全部そろえてお持ちいただきました。たいへん申しわけないことでございます。（拍手）そういうことで昨日までのすべての世界のデータがここに入っております。資料を全部お話しただけということよりも、お持ち帰りになって有用していただければと思います。

それから、選挙があつたりしてメディアはア

ベノミクスに批判的な人も増えてまいりましたけれども、先生は今の状況はたいへんいい方向へ向いているというお話をされるようでございます。新年がたいへん明るいいということで、『週刊東洋経済』の次の号にもそのインタビュー記事が載る予定だそうです。内容をじっくり伺っていただいて気持ちよく新年を迎えていただけたらと思います。

よろしく願います。（拍手）

嶋中 ただいまご紹介にあずかりました嶋中でございます。毎年こうしてこの演壇に立たせていただくのを楽しみにしております。

「2015年の日本経済を展望する」ということでありますが、日本経済といっても世界がないと話になりません。米国、ユーロ圏、日本